検印

第３学年１組　体育科学習指導案

平成２５年１０月２５日（金）第５校時　校庭
男子１８名　女子１５名　　計３３名
授業者　　教諭　畠山　眞由美

１　単元名　　スローイングボール　（ボール運動・ベースボール型）

２　運動の特性

（１）一般的特性

・２つのチームが攻撃と守備を交互に行い、ボールを投げたり捕ったりしてチームで協力しながら得点を競い合うベースボール型の運動である。
・進塁して得点を入れたり、進塁を阻止したりして競い合うことができる楽しい運動である。
・練習やゲームを通して、注意力や決断力が養われ、投力や走力などの体力を高めることが期待できる運動である。
・ゲームを成立させるために、「投げる・捕る・走る」といった多くの技能の要素を求められる運動である。
・うまい、下手、成功、失敗といった結果が、はっきり場面として表れる運動である。
・一つ一つのプレーの責任、判断が個に委ねられることが多く、成功体験、失敗体験がはっきりしやすい運動である。
・技能の個人差が大きいため、配慮に欠けると、優越感や劣等感を生じやすい運動である。

（２）児童から見た特性

〇より多く得点し、ゲームで勝利した時に楽しみや満足感が味わえる運動である。
〇自分がチームの勝利に貢献できた時、所属感や満足感が味わえる運動である。
〇友だち同士で教え合い、認め合うことができると楽しい運動である。
△「投げる・捕る」という基本の技能が身についていないとゲームを楽しめない運動である。
△練習しても「投げる・捕る」が上達しないと楽しくない運動である。
△ルールが分からなかったり、どう動いていいか分からなかったりすると楽しめない運動である。
△成功体験が多ければ楽しめるが、失敗体験が多いと意欲を失い、好き嫌いがはっきり分かれる運動である。

３　児童の実態

（１）　一般的な児童の実態

本学級の児童は、明るく元気がよい。休み時間は、「ドッジボールやる人？」「どろけいやろう。」「長縄やろう。」と声を掛け合って大勢で遊ぶ。また、本の面白さに気づきはじめ、本の返却のために図書室に行き来する児童も多い。理科で校庭で虫取りを行ったことから、引き続き虫取りに夢中になっている児童も何人もいる。それぞれがグループになって休み時間を過ごし、満足して帰ってくる。

ボール遊びに関しては、学級レクでドッジボールをやることもあるが、ボール遊びをあまり好まない児童もいるので、希望の多いどろけいや鬼ごっこをよく行っており、全体でのボール遊びは少ない。

放課後は、学童グループ３，４人がキックベースボールを時々行っている。サッカーが大好きな一部の男子グループは公園でサッカーに興じ、少年団の野球チームに入って活動している児童が一名いる。それ以外は、ボール遊びをほとんど行っていない実態がある。ただ、何にでも興味を持つ３年生という学年なので、楽しい場を設定することにより、ボール運動好きが急増してくれるのではないかと期待している。

体力測定結果（平成２５年５月８日実施）

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	12.06	14.88	28.94	34.76	35.19	10.26	144.33	13
県平均	12.78	17.27	29.79	36.06	39.53	10.09	138.96	15.13
比較	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲

女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	10.87	13.47	40.2	33.07	28.4	10.55	135.6	9.27
県平均	12.10	16.50	33.17	34.01	30.20	10.40	131.23	9.68
比較	▲	▲	○	▲	▲	▲	○	▲

○…県平均（Ｈ２４）を上回った　　▲…下回った

女子の長座体前屈と男女の立ち幅とびは県の平均を上回っていたが、ほぼ全ての種目において、平均値を下回っている。これらの力を伸ばすための、継続的な取り組みが必要である。

（１） 本教材にかかわる児童の実態

体育・ベースボール型ゲームに関する意識調査（平成２５年１０月１日実施）

１　外遊びは好きですか。			
①好き	②どちらかというと好き	③どちらかというと嫌い	④嫌い
２５人	５人	３人	０人

２　運動は好きですか。			
①好き	②どちらかというと好き	③どちらかというと嫌い	④嫌い
２４人	８人	１人	０人

３　どんな運動が好きですか。（３つまで選択可）			
①体つくり運動	②なわとび	③鉄棒・マット運動・とび箱	④かけっこ・リレー、幅跳び
２人	９人	２０人	１６人
⑤水泳	⑥ボール運動	⑦表現、ダンス	
２０人	１５人	１１人	

４　野球、ソフトボール、キックベースのルールを知っていますか。		
①知っている	②少し知っている	③知らない
１０人	１１人	１２人

５　野球、ソフトボール、キックベースは好きですか。			
①好き	②どちらかというと好き	③どちらかというと嫌い	④嫌い
１４人	７人	４人	８人
・楽しいから ・投げるのが好きだから ・分からないけど楽しそう ・みんなと走ったりけったりするのが好き ・うでの力がつくから ・野球を見ていて、好きだから ・負けたけど楽しかったから ・ボールは面白いし、試合もあるから ・野球のちからがつく		・ルールをよく知らない ・やったことがない ・ボールを使うのが嫌い ・投げる力がない ・投げるのがいや ・投げるのが苦手で笑われそう ・運動が嫌い ・前に野球をしていた時あんまり楽しくなかった	

５　今まで体育の学習で、楽しかったこと・うれしかったこと、つらかったこと・いやだったことがありますか。（両方記入可）	
楽しかったこと・うれしかったこと	つらかったこと・いやだったこと
・とびばこ、マットが楽しかった ・ボール投げが楽しかった ・体育の勉強ができるようになってうれしかった ・先生に教えてもらってできるようになったこと ・とび箱で７段跳べたこと ・とび箱で５段跳べたこと ・水泳で泳げるようになったこと ・運動会のダンスが楽しかった	・友だちに順番をぬかされた ・友だちがボールをキャッチしてくれなかった ・マット運動で首が痛くなった ・かけっこで転んだことが悔しかった

外遊びが好きな児童が多く、運動もほとんどの児童が好きである。ただ好きな運動の内容は、いろいろな領域に分かれる。ベースボール型の運動に関しては、「好き」「どちらかというと好き」と「きらい」「どちらかというときらい」が同じぐらいである。運動好きな児童が多いにもかかわらずベースボール型運動についてはあまり人気が無い。「知らない」「できない」「苦手」という理由が挙げられている。

ベースボール型のゲーム内容を知り、投げる、捕るができるようになることで、他の運動のように好きになっていく可能性は高いと思われる。

本学年の児童は、１、２年生で、ボール投げゲーム、ボールけりゲームを、３年生の１学期には、ソフトバレーボールを行ってきた。今回初めてベースボール型のゲームを経験する。既存のゲームにとらわれず、意欲的に取り組めるよう十分な配慮が必要と考える。ベースボール型の特性は維持しながらも、わかりやすく簡潔でなおかつグループみんなで協力し合えるようなゲームの内容を工夫したいと考えている。

４　教師の指導観

学校教育目標	思いやりのある子（徳）　　よく考える子（知）　　たくましい子（体）
研究主題	楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成 ―投力を重視したボール運動の展開―

【仮説１】

児童の発達段階と個々の児童の実態を的確に把握し、一人一人を伸ばす指導法を工夫すれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説１への手だて】

○児童の実態把握

体力測定の結果、アンケート、ボール投げの実態調査をもとに、児童一人一人の意識、技能、体力を把握する。

○一人一人を伸ばすための指導法の工夫

多くの児童は、「体育が好き」であり体を動かすことが好きである。ただ、ボール運動に関しては、女子を中心に遊びの中で行うことが少なく、投げること、捕ることの苦手意識もあるようである。あまりやったことがないことや投げたり捕ったりすることが思うようにできないことから「嫌い」につながっていると考えられる。ボール投げの記録は県の平均よりも劣っている。そのような実態から、「投げること」を前面に出して、授業を組み立てたいと考えた。パワーアップタイムでは、投げる、捕るを組み入れた場を設定し、上手下手にかかわらずに楽しめるように工夫する。楽しくパワーアップタイムを継続していく中で、技能の向上が望めると考える。自分の伸びが実感できれば、さらに意欲がわき、進んで運動に取り組むであろう。

試合においては、児童の実態から、簡単なゲームから始めることが必要だと考えた。塁に出やすくするために、投げて走る（スローイングボール）という攻撃にする。守備は、どこに投げるかがすぐわかるようにアウトサークルを設ける。

授業以外に、教室では、紙でっぽうの作り方を教えて、ばんばん鳴らしたり、メンコを一人３枚配り、雨の日の休み時間に遊ばせている。全員が一人一枚のマイタオルを用意して、タオルを使って投げる・捕るを楽しむことも経験させた。マイタオルは手触りが優しく子どもたちから好評であった。ただ、校庭では、一度落ちると土がつき、投げるときに土が目に入り、風が強いと流されるという弱点もあり、慣れてきた段階でボールに替える。ボールへの苦手意識のある児童にとってタオルボールでの導入は有効であると考えている。

【仮説２】

児童の願いを生かし、児童が仲間とコミュニケーションを取りながら、計画的・継続的に運動を実践する場である環境整備を進めていけば、進んで運動や遊びに取り組む児童が育つであろう。

【仮説２への手だて】

児童には、上手になりたい、友達に認められたいという思いがある。パワーアップタイムでは、グループで４つの場を回っていくが、一つ一つの場で声を掛け合うことを大事にしたい。「いくよ」「はい」「右にゆれるよ」などの連携のための声かけだけでなく、「ナイス!」「上手!」「いいね！」という認め合いの言葉がけを大いに賞賛したい。また、パワーアップタイムを継続して行っていく中でさらに投力や捕球力をつけ、試合にも慣れていけば、ボールゲームに親近感を持ち、進んで取り組む児童が育つと考える。

〈パワーアップタイム４つの場〉

〈投げたら走れ〉

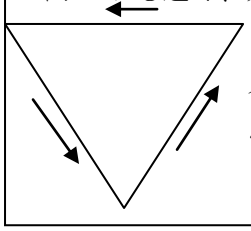
○○○○　　●●●●

白の先頭がボールを黒の先頭に投げる。投げたら走って黒の最後に着く。それを繰り返していく。全員が終わって１サイクル。

〈タンタタ・ビューン〉

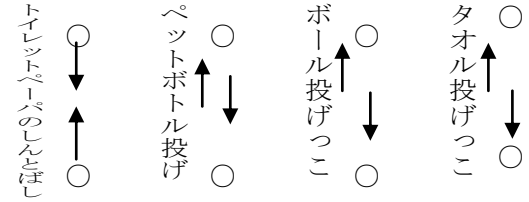
投てき板の的あてである。２メートルの線の中で、後ろから踏み込んで、線をはみ出さず缶に向かってボールを投げる。

〈球よりも速く、人よりも速く〉



コーナーを走る人とベースにいてボールを中継する３人とのどちらが速いかの競争である。

〈いろいろ投げ〉



試合においても励まし、教え合い、認め合う声かけを大事にする。また、守備の運動量確保とチームワークを高めるという観点から、アウトサークルに守備の児童全員が手をつないで入って「アウト」と叫んだ時にアウトが成立するというルールを設定した。試合は運動量の確保も考えて、審判をおかずセルフジャッジとし、対立したときはじゃんけんで決めることとした。とかく熱しやすい３年生であり、勝ち負けにこだわらないということは難しいが、勝っても負けても気持ちのよい試合になるようにそのたびごとに指導していきたい。

また、全体を通して、素早い行動や、規律等しっかりと行わせ、気持ちの良い時間を共有していきたい。

【仮説３】

児童自らが健康・安全について理解し、体力の伸びを実感できる活動の工夫をすれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説３への手だて】

パワーアップタイムの場のなかで、前よりも今のほうができるようになったということが実感できるような工夫を行う。

〈タンタタ・ビューン〉では缶を吊り下げることにより、何回的に当たったかを比べることができる。〈いろいろ投げ〉のペットボトル投げは、５メートルごとに色を変えた紐をそばにおき大体の距離がわかるようにする。また、キャッチボール中心の場であるので、投げ合う中で、前よりも正確に投げたり捕ったりできるようになれば、手ごたえが感じられるであろう。〈投げたら走れ〉では、ストップウォッチをおき、全員が終わるまでの時間を計れるようにしてチームの力の伸びを感じさせたい。

体操についても、ただやらされている準備運動や整理体操にならないように、なぜ大事なのかを３年生にわかる範囲で話していきたい。特に、動きごとに体のどこに働きかけているかも話していくことにより、意識を伴って体操が行われ、体操の効果がさらに上がると思われる。ただ、３年生なので理論よりも動きがわかる言葉がけをさらに大事にしたい。例えば回旋の際に「手を見て回してみよう」などの言葉がけを考えたい。

体を動かすことが、体力をつけ、健康な体を作ることにもつながるが、運動をするときには、怪我や事故がないように心を配り、健康管理、場の確認、準備体操など一人ひとりが丁寧にやっていくことが大事であることに気づかせ、実際に行わせていきたい。

5　単元の目標

（１）友達とはげまし合って、仲良く進んで練習やゲームに取り組むことができるようにする。

（関心・意欲・態度）

（２）規則を守りながらゲームを行い、素直に勝敗を受け入れることができるようにする。

（関心・意欲・態度）

（３）ボールの投げ方や簡単な作戦を考えながら学習に取り組むことができるようにする。　（思考・判断）

（４）ボールを投げる、捕るなどの基本的な技能を身に付け、ゲームを楽しむことができるようにする。

（運動の技能）

6　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
・友達とはげまし合って進んで練習やゲームに取り組もうとしている。 ・規則を守り、勝敗を受け入れようとしている。	・ボールの投げ方を知るとともに、チームに合った作戦を選んでいる。	・ボールを投げる、捕るなどの基本的な技能を身に付け、ゲームをすることができる。

7　単元の計画

（1）ボール運動の取り扱い

運動／学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
ネット型	１０			
ゴール型	８	２６	１４	１４
ベースボール型	８		８	７

（2）学習過程（８時間扱い）

時	1	2	3	④	5	6	7	8
0	オリエンテーション ・学習の内容、進め方を理解する ・基礎技能について ・ルール、コート ・チーム編成 ・めあての設定	集合・整列・あいさつ・健康観察・準備運動・慣れの運動・補強運動						
		【ねらい１】 パワーアップタイムやゲームの流れを知り、必要な技能を身につけよう。 ○パワーアップタイム 〈投げたら走れ〉 〈タンタタ・ビューン〉 〈球よりも速く、人よりも速く〉 〈いろいろ投げ〉 ○ゲーム ・リーグ戦 ・ルール、コートに慣れる ・チームに慣れる ・自分のチームや相手のチームの特徴を知る			【ねらい２】 チームでかんたんな作戦を工夫し、ゲームを楽しもう。 ○パワーアップタイム 〈投げたら走れ〉 〈タンタタ・ビューン〉 〈球よりも速く、人よりも速く〉 〈いろいろ投げ〉 ○ゲーム ・リーグ戦 ・チームの作戦を生かす			【ねらい３】 スローイングボール大会をしよう。 スローイングボール大会
45		後片付け・まとめ・整理運動・あいさつ						

（3）評価計画

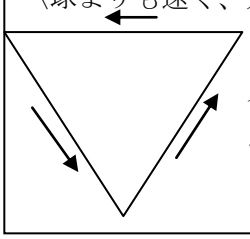
時	重点観点	学習活動における具体の評価規準	評価の場面	評価の方法
1	関心・意欲・態度	・スローイングボールに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	オリエンテーション	観察 問いかけ
2	思考判断	・パワーアップタイムのやり方を知っている。	パワーアップタイム	観察 学習カード
3	思考判断	・メインゲームのやり方を知っている。	メインゲーム	観察 学習カード
④ 本時	運動の技能	・全力で投げたり、相手のボールを捕ったりすることができる。	パワーアップタイム メインゲーム	観察 学習カード
5	関心・意欲・態度	・決まりを守って、勝敗を素直に認めることができる。	メインゲーム	観察 学習カード
6	思考判断	・チームに合った簡単な作戦を立てている。	メインゲーム	観察 学習カード

7	運動の技能	・全力で投げたり、相手のボールを捕ったりすることができる。	メインゲーム	観察 学習カード
8	関心・意欲・態度 運動の技能	・チームで声をかけ合い、励まし合いながら楽しくゲームに取り組もうとしている。 ・ボールを投げる、捕るなどの基本的な技能を身に付け、ゲームをすることができる。	メインゲーム	観察 学習カード

（4）学習と指導・評価

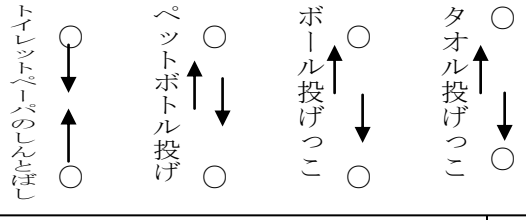
段階	学習のねらい・活動	指導（○）　評価規準（◆）	評価方法
はじめ ４５分 × 1	1　学習のねらいや進め方を知り、単元の見通しを持つ。 ・必要な基本技能を知る。 ・ゲームの仕方を知る。 ・学習のきまりを確認する。 2　チーム編成をする。（４チーム） ・男女混合８人 ・チームキャプテンを決める。 ・チーム名を決める。 ・ビブスの色を決める。	○スローイングボールの特性を理解させる。 ○学習のねらいと進め方を説明し、単元の見通しを持たせる。 ○背の高さ、体力測定の 50m走の結果、性格等を考慮してチームを決める。 （第１時） ◆スローイングボールに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】	・観察 ・問いかけ
なか ① ４５分 × 3	【ねらい１】 パワーアップタイムやゲームの流れを知り、必要な技能を身につけよう。 1　準備運動・慣れの運動・補強運動 2　本時のねらいや学習の進め方を確認する。 3　パワーアップタイム 〈投げたら走れ〉 ○○○○　→　●●●● 白の先頭がボールを黒の先頭に投げる。投げたら走って黒の最後に着く。それを繰り返していく。全員が終わって１サイクル。 〈タンタタ・ビューン〉 投てき板の的あてである。２メートルの線の中で、後ろから踏み込んで、線をはみ出さず缶に向かってボールを投げる。	○音楽を使うことにより、リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わわせる。 ○動きを正確に行えるようにする。 ○学習のねらいと進め方を説明し、単元の見通しを持たせる。	

〈球よりも速く、人よりも速く〉



コーナーを走る人とベースにいてボールを中継する３人とのどちらが速いかの競争である。

〈いろいろ投げ〉

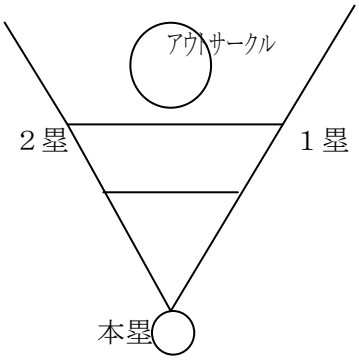


○それぞれの場のネーミングを工夫して、動きを分かりやすくする。
○チームで声をかけ合って行わせる。
○全力で取り組ませる。
○音楽でそれぞれの場の終了が分かるようにして、手際よく次の場に移動する。

・観察
・学習カード

4　スローイングボールの試合

〈２面のコート〉



○チームで協力して、取り組ませる。
○安全に、適切に行わせる。
○協力して取り組み、動きが高められているチームを賞賛する。
○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。
○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。
○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師が関わる。

・観察
・学習カード

5　学習のまとめ

○自分のめあての達成状況を確認させる。
○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。

6　後片付け、整理運動

（第２時）
◆パワーアップタイムのやり方を知っている。【思考・判断】
（第３時）
◆メインゲームのやり方を知っている。【思考・判断】
（第４時）
◆全力で投げたり、相手のボールを捕ったりすることができる。【運動の技能】

なか② 45分×3	【ねらい２】 チームでかんたんな作戦を工夫し、ゲームを楽しもう。		
	1　準備運動・補強運動・慣れの運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。	
	2　めあての確認	○児童が理解しやすいように、絵や画像を例示する。	
	3　パワーアップタイム		

〈投げたら走れ〉

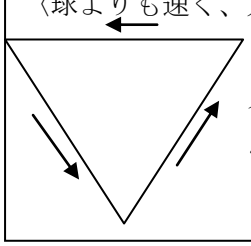
○○○○ ⟶ ●●●●

白の先頭がボールを黒の先頭に投げる。投げたら走って黒の最後に着く。それを繰り返していく。全員が終わって１サイクル。

〈タンタタ・ビューン〉

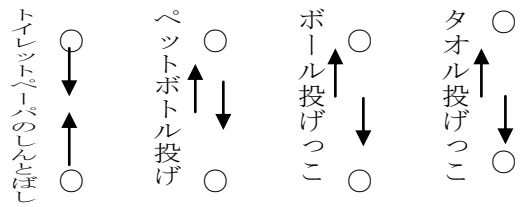
投てき板の的あてである。２メートルの線の中で、後ろから踏み込んで、線をはみ出さず缶に向かってボールを投げる。

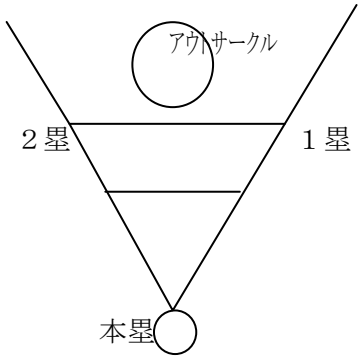
〈球よりも速く、人よりも速く〉

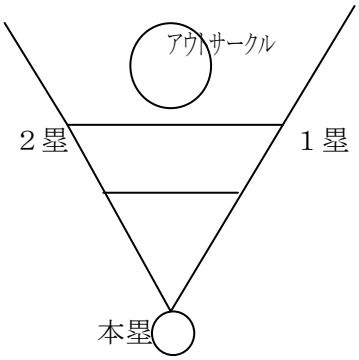


コーナーを走る人とベースにいてボールを中継する３人とのどちらが速いかの競争である。

〈いろいろ投げ〉



	4　スローイングボールの試合 〈２面のコート〉  	○挨拶をしっかりと行わせる。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○励まし合い、教え合っているチームを賞賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師がかかわる。 ○チーム内で進んで声掛けをさせる。 ○作戦を意識し、協力してゲームに取り組ませる。	・観察 ・学習カード
	5　学習のまとめ	○自分のめあての達成状況を確認させる。 ○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。	
	6　後片付け、整理運動		

		（第５時） ◆決まりを守って、勝敗を素直に認めることができる。　【関心・意欲・態度】 （第６時） ◆チームに合った簡単な作戦を立てている。 【思考・判断】 （第７時） ◆全力で投げたり、相手のボールを捕ったりすることができる。　【運動の技能】	
まとめ ４５分×１	ねらい③ スローイングボール大会を楽しむ。 １　準備運動・補強運動・慣れの運動 ２　ルールの確認 ３　スローイングボール大会 〈２面のコート〉  ４　学習のまとめ ５　後片付け、整理運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○規則や、態度等のマナーを確認する。 ○挨拶をしっかりと行わせる。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○励まし合い、教え合っているチームを賞賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師がかかわる。 ○チーム内で進んで声掛けをさせる。 ○作戦を意識し、協力してゲームに取り組ませる。 ○自分のめあての達成状況を確認させる。 ○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。 （第８時） ◆チームで声をかけ合い、励まし合いながら、意欲的にゲームに取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ◆ボールを投げる、捕るなどの基本的な技能を身に付け、ゲームをすることができる。 【運動の技能】	・観察 ・学習カード ・問いかけ

8　本時の学習と指導（４／８時）

(1)ねらい

○全力で投げたり、相手のボールを捕ったりすることができる。【運動の技能】

(2)準備

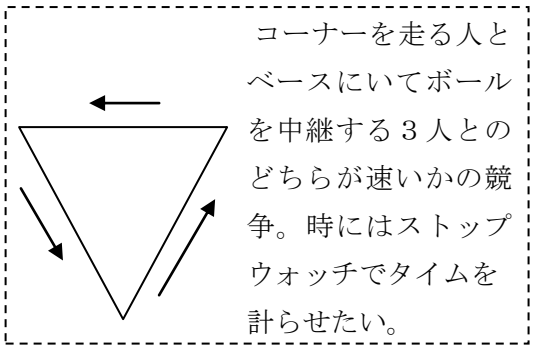
児童　学習カード、筆記用具、ビブス、赤白帽子

教師　指導用太鼓、笛、カセットデッキ、CD、得点板、ストップウォッチ、黄色ボール
タオルボール、ペットボトル、色つき紐、トイレットペーパー芯、掲示資料（めあて）、

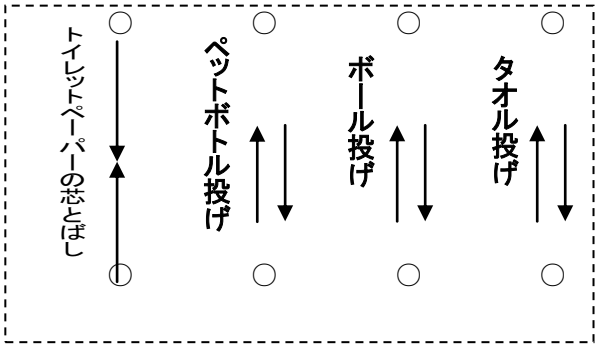
(3)展開

段階	学習のねらい・活動	指導上の留意点（○）、評価（◆） 努力を要する児童への手立て（△）
導入 ４ 分	１　集合・整列・挨拶・健康観察をする。 ２　本時のねらいや学習の進め方を確認する。 ３　準備運動・慣れの運動・補強運動をする。	○速やかに集合整列させ、元気のよい挨拶でスタートする。 ○表情や動きから健康状態を把握する。 ○服装、髪型を整えさせる。 ○前時までの活動を振り返り、本時の学習の意欲づけを行う。 ○音楽を使うことにより、リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わわせる。楽しさが優先して運動が雑にならないように十分気をつける。 ○一つ一つの運動を正確に行わせる。
展開 ３５ 分	４　本時のねらいを確認する。 全力で投げたり、相手のボールを捕ったりしよう。 ５　パワーアップタイムの４つの場でボール運動をする。 **<投げたら走れ>** ○○○○ ⟶ ●●●● 白の先頭が黒の先頭にボールを投げる。投げたら走って黒の最後尾につく。これを繰り返す。全員終わって１サイクル。 **<タンタタ･ビューン>** 投てき板の的あてである。２メートルの線の中で行う。後ろから踏み込んで、線をはみ出さず、缶に向かってボールを投げる。	○めあてを提示する。 ○それぞれの場のネーミングを工夫して動きをわかりやすくする。 **○<投げたら走れ>** 落ち着いて投げ、投げたら直ぐに走るという試合につながる動きを練習させる。 **○<タンタタ･ビューン>** フォームを意識しながら、投げようと思っているところに的確に投げられるようにしていく。

〈球よりも速く、人よりも速く〉

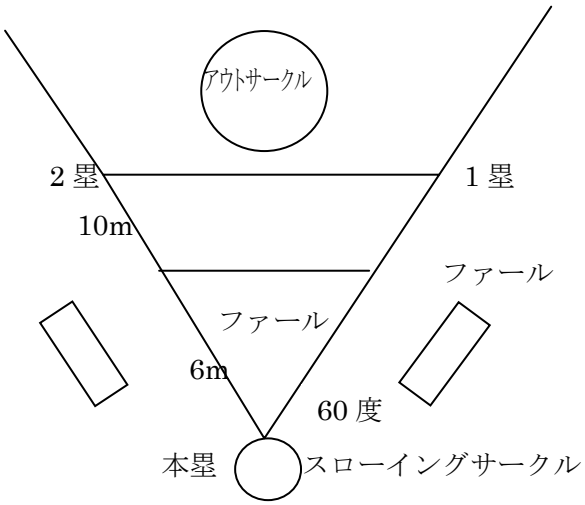


〈いろいろ投げ〉



5　スローイングボールの試合を行う。

〈２面のコート〉



○〈球よりも速く、人よりも速く〉

ボールを持たずに動きにだけに集中して、進塁の練習をさせる。必ずベースを踏む習慣をつけさせる。またボールを回す側は、落ち着いて送球や捕球するというゲームにつながる練習をさせる。ゲーム性を持たせることで、試合のような緊張の中で速さを競い合わせたい。

○〈いろいろ投げ〉

投げる、捕るが苦手な児童が多いので基本の練習ができる場を設ける。ただ、得意な児童は、揺らしたボールの捕球を練習したり、ペットボトルで、飛距離を確かめたりする場とする。

○チームで声を掛け合って行わせる。特に励まし合い、認め合い、教え合いの声かけを賞賛する。

△苦手な児童も前回より少しでも上手になっていたらみんなで声をかけ、伸びを認め合う。

○それぞれの場で工夫しながら取り組ませる。

○伸びの見られる児童への声かけを大事にする。

○音楽でそれぞれの場の終了がわかるようにして手際よく次の場に移動する。

△動き方が分からない児童には、積極的に教師が関わり、助言をする。

○めあてを確認して始める。

○ゲーム前後の挨拶をしっかりと行わせる。

○ルールを守り、運動にふさわしい態度で取り組ませる。

○積極的に声をかけ合い、励まし合いながら取り組ませる。

△判定がもつれた場合やトラブルになりそうになった場合はじゃんけんをさせるが、教師も積極的に関わる。

△ボール運動が苦手な児童の伸びを認め、声をかける。

◆全力で、投げることができる。

【運動の技能】

		◆相手のボールを捕ることができる。 【運動の技能】
整理 6 分	8　片付け 9　今日のまとめ ゲームの結果を伝え、互いのよさや頑張りを認め合う。 １０　整理運動 １１　次時の予告を聞き、終わりの挨拶をする。	○協力し合い、安全に手際よく片付けさせる。 ○本時の学習を振り返り、まとめをさせる。 ○めあてに対する本時の成果を学習カードに記録させる。 ○ゆっくり行い、筋肉をほぐす。 ○児童の努力を認め、次時への意欲づけを行う。 ○全員の健康状態を把握し、気持ちのよい挨拶で学習を締めくくるようにする。

スローイングボール

ルールとやくそく

攻撃と守備に分かれる。

① スローイングサークルからボールを投げる。ボールが手を離れたら、1塁2塁本塁とベースを踏みながら走る。
※ファールゾーン（6ｍ内と線の外）にボールが落ちた時は、やり直し。３回目のファールでアウトとする。

② 投げたボールと守備全員がアウトサークルに入り「アウト」と声があがった時に走塁をストップしなければならない。
「アウト」と声があがった時点で踏んだベースの数が攻撃者の点数となる。

③ 攻撃者は、ベースに残らずにベンチに戻る。

④ 攻撃を全員行ったところで守備と攻撃が入れ替わる。
※攻撃者の人数を合わせる。

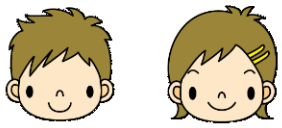
スローイングボール　学習カード

名前

番

1．チーム名

2．メンバー　（◎リーダー、○ふくリーダー、・メンバー）

○	・	
・	・	
○	・	・
・	・	

3．めあて

4．スローイングボールの学習全体をふりかえって
（いちばんさい後のじゅぎょうが終わったあとに書きます。）

【今日の学習をふりかえって】

		めあて	一言感想
①	／		
②	／		
③	／		
④	／		
⑤	／		
⑤	／		
⑦	／		
⑧	／		

（◎・○・△）	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
	／	／	／	／	／	／	／	／	／
楽しく活動できた。									
せいいっぱい全力を出して運動できた。									
めあてに向かってたくさん練習できた。									
友だちと教え合ったり助け合ったりできた。									
どうしたらいいか考えながら学習できた。									
はげましの言葉をかけることができた。									
自分のプレイに点数をつけよう！ （今日は何点？）									